

技の守り人 匠会通信

越後与板打刃物匠会

No.5 5月号

平成24年度さらなる発信を。匠会が始動！

町を歩くと、おなじみとなった匠会の目印「のれんとフラッグ」が掲げられ、与板に春の訪れを告げています。



桜の開花に合わせるように4月20日匠会の新年度総会が開かれました。長岡市本庁からは新たに着任した竹田工業振興課長、里村係長、そして支所側からは松永支所長、三本課長、中村係長など、フレッシュな顔ぶれでの総会となりました。

昨年の匠会の前向きな活動が評価され、市補助金の補助率が2分の1から3分の2に引き上げられ、さらに昨年に引き続いて県の補助金申請も行うことになりました。越後与板の伝統打刃物をもっと広く知ってもらいたい、そのために今年はさらに積極的に前に出ていく事業をすすめます。

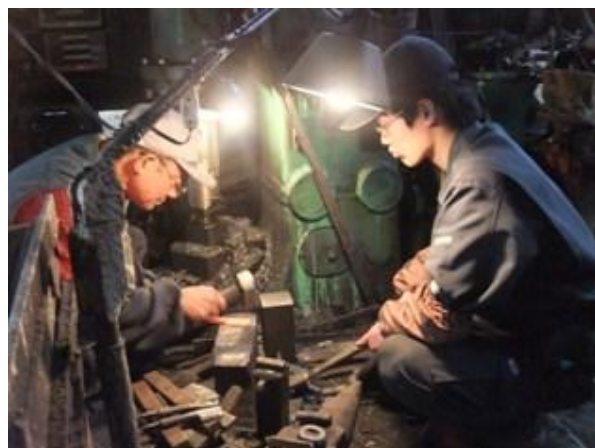
- ① 秋の国際見本市（インターナショナルギフトショー）への出展参加 PR
- ② 新製品の開発（福田先生からデザイン指導を受け一般向け製品を開発）
- ③ 地元小学校を対象に刃物造り体験と後継者育成事業の実施（伝産協会事業）

④ 東京での与板打刃物 PR 事業の実施

⑤ アオーレで2月「新潟の匠展」参加などの目玉事業が今年は目白押し。一歩でも前へ踏み出そうとするこの匠会の姿勢が、与板に活力を呼び込むことを信じて。

伝統打刃物の後継者育成は 待ったなし！

20日の総会時にも熱っぽく論議がかわされたのが後継者問題。分業化した与板の刃物造り、すでに研ぎ職人がいなくなるとの危機感を抱く人は多い。絶えてしまっただけでは間に合わない。後継者育成は焦眉の急。「教える育てることにもっと本腰を入れなくては。」「いや、仕事量が増えることがまず大事。仕事があれば職人志望も増えるはず。」「後継者育成のために市からも何とか支援制度を作ってもらいたい。」…と会員の熱心な意見交換は続きました。



4月から河政刃物に弟子として入った安達君。まじめでコツコツと努力する好男子。この新弟子を匠会としてどうサポートできるかが問われています。「大事なトキのひな」に匹敵する彼を匠会としてみんなで見守り技術提供や応援をしていきましょう。